

名勝 西之丸庭園

おほしろうか

御橋廊下

藩主の趣味の場である西の丸と生活の場である二の丸大奥とを繋ぐ廊下橋。藩主と一部のお付の者だけが通行できた。風雨を避け、外から姿が見えないように屋根と壁を設けている。兩岸の高低差のため斜めにかかる珍しい橋で、滑らないように廊下の床板を鋸歯状に組んでいる。江戸時代の図面を基に平成18年(2006)復元。



御橋廊下と天守閣の雪景色

花だより



紀伊上臈杜鵑 10月下旬
(紅葉溪橋下の岩場等)



紅葉 11月下旬～12月上旬
(西之丸庭園全体)

利用案内

■西之丸庭園・御橋廊下

入園料／無料 開園時間／午前9時～午後5時
休園日／12月29日～12月31日(御橋廊下は1月3日まで休)

■紅松庵

利用時間／午前9時～午後4時30分
休日／12月29日～1月3日
一服／460円(抹茶・御菓子)
※貸し切り利用となっている日はご利用できません。

■お問い合わせ

○和歌山城整備企画課 ☎073(435)1044
〒640-8511 和歌山市七番丁23番地

このパンフレットは平成25年度「地域の特性を活かした史跡等総合活用支援推進事業」の補助金を受けて作成しています。



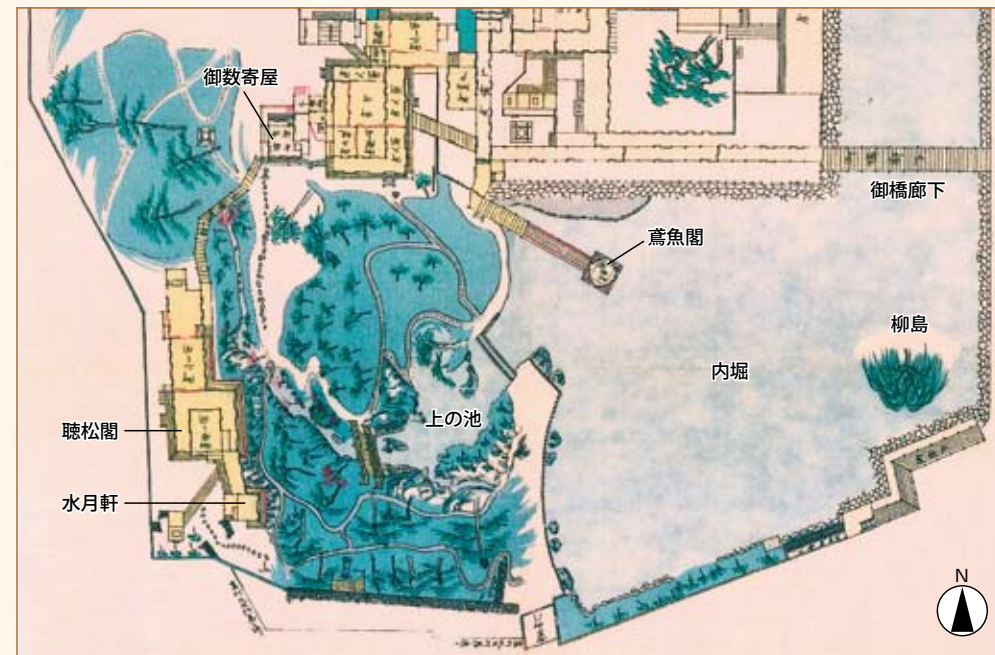
名勝 西之丸庭園

和歌山城西之丸庭園は城郭内にある江戸初期の大名庭園である。虎伏山の急峻な斜面を利用し、滝石組を中心に立石を多く据え、豪快に作庭している。溪状地形を利用して小さい方の「上の池」を掘り、柳島を配置して内堀を大きな池に見立てた池泉回遊式の庭園である。通説では紀州徳川家初代頼宣の命による小堀遠州流の造園とするが、徳川家以前の城主である浅野家の家老上田宗箇の作庭であるとの説も有力。

和歌山城において西の丸は殿様が数寄や風雅を楽しむ場所である。庭の北側には浅野時代から書院式茶室の数寄屋があり、西之丸庭園は書院式の茶庭とも言えるかもしれない。庭園南西の高台に、離れ座敷の「聴松閣」と茶室の「水月軒」が建てられていた。これは、早くとも徳川光貞が二代藩主となった直後の寛文8年(1668)以降である。昭和48年(1973)に庭園を整備し、同60年に「西之丸庭園」として国の名勝に指定された。紅葉が見事で「紅葉溪庭園」とも呼ばれている。



西之丸庭園(大正末～昭和初年)



和歌山西丸図(江戸後期、部分)

西之丸庭園の観賞

The Scenic Beauty of the Nishinomaru-Teien Garden



内堀を大きな池に見立てるため、水中にある緑色片岩の岩盤を利用して「柳島」を配置している。

小さい方の「上の池」の中には、「御舟石」と呼ばれる船首を上げたような石があり、神仙世界から訪れる宝船の象徴的表現といわれている。虎伏山へと続く南側の丘陵を、神山に模しているのだろう。御腰掛のある南の高台から池・堀全体を望むと、草書体の「心」の字に似ており、「心字池」の一種といえるかもしれない。



御舟石
① Boat Stone

鳶魚閣

② Engyokaku Pavilion

西之丸庭園内にあり、堀に突出した釣殿風の建物。堀に面する窓は障子張りの火打窓で、室内は四畳半の畳敷である。江戸時代には西の丸御殿と斜め廊



下でつながっており、池にたたずむ姿が優雅であった。鳶魚閣は中国最古の詩集である『詩経』の一節「鳶飛戾天、魚踊于淵」から名付けられたのだろう。



鳶魚閣 室内

「鳶飛戾天、魚踊于淵」

(鳶飛んで天にいたり、魚ふちに踊る)

自然の性に従って動き、自らその楽しみを得るという意味。

名勝 西之丸庭園



The Scenic Beauty of the Nishinomaru-Teien Garden

The Nishinomaru-Teien Garden is located on the grounds of Wakayama Castle. It was originally built in the beginning of the Edo period (1603 - 1868 AD) as the feudal lord's garden.

The surrounding terrain has been skillfully incorporated into the garden, which is designed to be best enjoyed by taking a stroll around it. Many standing stones are set in the steep slope of Mt. Torafusu giving the garden a lively and stirring feel. The shape of the valley has been utilized to create a small pond and a small island was installed in the moat to make it look like a second, larger, pond.

Nishinomaru was originally used as an area for the feudal lord to enjoy the tea ceremony and his other hobbies. A teahouse was built in the north end of the garden. Because of that, the Nishinomaru-Teien Garden can also be considered to be a tea garden. Sometime later, a building called Choshokaku was erected on the hill to the southwest and a teahouse called Suigetsuken was also built.

Maintenance was performed on the garden in 1973 and subsequently, in 1985, it was officially designated by the government as a Japanese place of scenic beauty.

Because the maple leaves in the garden are very beautiful in the autumn, this garden is also known as the Momijidani-Teien Garden, which means 'The Garden of the Valley of Maple Leaves'.

聴松閣・水月軒跡

③ The Ruins of Choshokaku and Suigetsuken Teahouse

庭園南西の高台に建てられていたのが、離れ座敷の「聴松閣」と茶室の「水月軒」である。澄んだ心で静かに自然を鑑賞する心境を意味する「松風水月」から命名されたのであろう。「聴松閣」は、殿様が上段にすわる御座之間と二之間・三之間で構成されていた。「水月軒」の東側の縁は懸け造りで崖上に突出しており、その下には滝が流れていた。



地鎮・鎮壇具

Votive Objects-These sacred ceremonial items were buried at the building site of the structure as an offering to appease the gods in the area.



地鎮・鎮壇具とは、その土地の神様を鎮めるために埋める祭祀具。西之丸庭園では昭和48年(1973)聴松閣跡の発掘の際に、藩主が座る御座之間の下から壺、輪宝、背

に「文」とある文字銭の寛永通宝等が出土した。密教法具を用いたことから真言密教系の祭祀が行なわれたのだろう。現在は和歌山城天守閣で公開している。

紅松庵

④ Koshokan Teahouse

数寄屋造りの茶室である紅松庵は、昭和48年(1973)の庭園整備を記念して、本市出身の松下幸之助氏の寄附により翌年5月に落成した。「紅葉溪」の「紅」と松下氏の「松」からの命名である。ここは徳川時代にも数寄屋が建っていた。浅野時代には数寄屋から鎖之間、書院へと続く書院式茶室があった。

